

早稲田大学 教育学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	90分(現代文2問、古文・漢文1問)
難易度	昨年並み

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「テクノロジーと科学的な認識」について。

出典:戸谷洋志・百木漢『漂泊のアーレント 戦場のヨナス』。

《本文字数:約 4100 字=昨年より約 400 字減少。設問数:8=昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや難	【傍線部説明】1～6行目から、テクノロジーの特性をつかむ。ハは「不調和」が不足しており、ニと迷うが、直前の「際限のない自己増殖」が重要だと判断する。
問二	標準	【傍線部説明】8～14行目から、テクノロジーの蔓延のあり方を捉える。ホの「人間の意図…できない」は10行目「意図的で…範囲外にある」の言い換えである。
問三	標準	【空欄補充】「一蓮托生」とは「行動や運命をともにする」という意味。
問四	標準	【理由説明】直後の二段落から、科学とテクノロジーが同一視される理由を捉える。
問五	標準	【理由説明】同段落と次段落の引用部分から、科学に実験が取り入れられた意義をつかむ。
問六	やや易	【空欄補充】前二段落と同段落(特に末尾の一文)から、科学に実験が取り入れられた結果、対象(宇宙を含む)をどのように捉えるようになったかをつかむ。
問七	やや難	【傍線部説明】同段落と次段落の引用部分から判断する。ハの「似たような形式」は引用部分第三文等にある「諸要素」の言い換えである。イ・ロは後半が不適切。
問八	やや易	【理由説明】文章全体と各選択肢を照合する。ロは「その技術がなくなれば…」以下が本文からは読み取れないことは、容易にわかるだろう。

(二) 評論文。「主観的経験世界と身体」について。

出典:田中彰吾『自己と他者 身体性のパースペクティブから』。

《本文字数:約 3700 字=昨年より約 200 字増加。設問数:8=昨年より 1 問減少。》

小問	難易度	コメント
問九	標準	【漢字】「間欠的」とは「一定時間を隔てて起こるさま」という意味。
問十	易	【漢字】「代謝」とは「古いものと新しいものとが入れ替わること」という意味
問十一(I)	やや難	【傍線部理解】傍線部の「見方」とは「神経構成主義」であることをつかみ、その説明箇所と各選択肢を照合する。ホは二箇所の「脳のイメージ」が不適切。「世界のイメージ」である。
問十一(II)	やや易	【理由説明】同段落と続く二段落の内容から判断する。イは「知ることができる」ではやや不足で疑問だが、ニは具体例に過ぎないため説明として不適切である。
問十二	標準	【接続語の理解】前段落と同段落の対比関係をつかむ。消去法が有効だろう。
問十三	やや難	【理由説明】前二段落と同段落から判断する。傍線部に「幻肢を…認識不可能な現象にしてしまう」とあることがヒントになる。ロが紛らわしいが、後半が不適切。
問十四	やや難	【接続語の理解】傍線部直後の内容は、次段落第一文をヒントに「自己のライブは社会的なしかたで構成されている」と解釈できる。選択肢の前半はハよりイが適切だが、後半の表現からハを採る。
問十五	標準	【傍線部説明】前二段落と同段落の内容から判断する。消去法が有効だろう。ホは前半が不適切である。
問十六	標準	【趣旨理解】神経構成主義を批判している趣旨を捉える。

(三) 古文。出典:延慶本『平家物語』。

《本文字数:約 950 字=昨年より約 300 字減少。設問数:9=昨年より 2 問減少。》

小問	難易度	コメント
問十七	やや易	【空欄補充】いずれも前後の文脈から判断できる。容易だろう。
問十八	やや易	【敬意の対象】a=成親卿から姫君への発言、b=人々がおそれたのは成親卿、c=兵衛佐から姫君への発言を受けた部分、であることから判断する。
問十九	標準	【傍線部理解】本文の後半から姫君が小松殿を慕っていることをつかむ。
問二十	やや易	【傍線部解釈】「心(を)おく」で「心に隔てをおく・遠慮する」の意。文脈からも判断できる。
問二十一	標準	【主語判定】3=小松殿を見初めたのは誰か。4=小松殿が言ったことを聞かなかったのは誰か。
問二十二	やや易	【傍線部理解】問十九と同様に、本文の後半から姫君が小松殿を慕っていることをつかむ。
問二十三	やや易	【傍線部理解】前文とのつながりから容易に判断できる。
問二十四	標準	【傍線部理解・傍線部解釈】問十九と同様に、本文の後半から姫君が小松殿を慕っていることをつかむ。
問二十五	やや難	【文学史】二は鎌倉中期に成立した軍記物語。

(四) 漢文。出典:洪邁『夷堅志』。

《本文字数:137 字=昨年より 105 字減少。設問数:7=昨年より 1 問増加。》

小問	難易度	コメント
問二十六	やや易	【傍線部理解】直後の「意為凍裂」とのつながりから判断できる。
問二十七	やや易	【空欄補充】次行の「独此瓶不然」との対比関係から判断できる。
問二十八	やや易	【傍線部理解】張虞卿がこの瓶を大切にしていたこともヒントになる。
問二十九	やや易	【傍線部解釈】前行から述べられているこの瓶の効能をふまえて考える。
問三十	やや易	【傍線部理解】受身形「為A所B」を意識できたか。
問三十一	標準	【書き下し文】「無」に着目して選択肢をしぼる。
問三十二	標準	【内容合致】ホは本文末3行の内容に合致する。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年並み。大問二の現代文が難化し、古文が易化した。現代文で差がつくと思われる。分量が多いので、時間に追われた受験生が多かっただろう。

大問一は、「テクノロジーと科学的な認識」についての評論文。昨年並みの難易度である。基本・標準レベルの設問は得点しておきたい。

大問二は、「主観的経験世界と身体」についての評論文。昨年より難化した。差がつくだろう。

大問三は、『平家物語』。昨年より易化した。本学部では珍しい軍記物語からの出題である。本文字数が約 300 字減少し、設問も 2 問減少した。

大問四は、『夷堅志』。昨年並みの難易度である。しっかり得点しておきたいレベルの設問ばかりであった。